

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成18年10月13日(金) 5校時
児 童 男子3名 女子10名 計13名
指導者 高橋 浩司

- 1 単元名 ニ 目的に応じた伝え方を考えよう
- 2 教材名 ニュース番組作りの現場から(清水 建宇)
工夫して発信しよう

3 単元について

(1) 指導事項について

本単元の主たる指導事項は、「必要な情報を得るために、効果的な読みを工夫すること」(読オ)「全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること」(書工)である。この力を育てるためには「必要な事柄を時間の進行に沿って段落ごとに読み取ること」「文章全体の展開を想定し、目的や意図、必要性や効果などを考えながら材料の収集、選択、整理すること」などの力を育てる必要がある。本単元では、「文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュース番組がどのように作られていくかを知り、伝えたいことと伝える方法について興味を深める」「伝えたいことをどのように伝えるかを考え、形にして発信する」ことを目標とする。

(2) 教材について

本単元は、「ニュース番組作りの現場から」と「工夫して発信しよう」で構成されている。「ニュース番組作りの現場から」では、ニュース番組の特集の作り方について全体の流れを時間の進行に沿って学習する。その後「工夫して発信しよう」では、教材文の読み取りを生かし、自らが発信者となり情報を発信する活動を行う。発信する立場で活動を行うことで、今まで視聴者として接するだけのニュース番組を客観的に、または立体的に見ることができる。

本教材は、ニュース番組の特集の作り方についてまとめた文章である。時間に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞り込み方等が分かりやすく整理されている。その後の「工夫して発信しよう」では、教材文で学習した流れに沿って、情報を発信する活動に取り掛かることができる。

以上のことから、本教材は「ニュース番組作りの現場から」の学習を手引きとして、自らが工夫して情報を発信する活動を行うのに適した教材といえる。

(3) 児童について

児童は4年上「かむことの力」、5年上「千年の釘にいどむ」の学習では、段落ごとに大事なことを読み取る学習をしてきた。「千年の釘にいどむ」では、読んだ本について自分の感じ方や考え方を明確にして感想をまとめることができた。また、4年上「伝え合うということ」、4年下「生活を見つめて」、5年上「言葉の研究レポート」では調べたことを整理し、発表する活動を行った。「言葉の研究レポート」では、言葉について調査・研究したことをレポートの構成を考えながらまとめることができた。

説明文を読むことについては、自力で書かれている内容を的確に読み取り、要旨をとらえることができる児童もいるが、書かれている内容を一文ずつ確かめたり、写真や図で説明を加えたりしながら時間をかけて学習を進めていかないと内容が把握できない児童もあり、個人差が大きい。

また、書くことについては、目的に応じて調べた事柄を、文章の構成を意識して書くことができる児童が多いが、中には調べたことの要点をまとめることが苦手だったり、文章全体として文と文がうまくつながらなかつたりする児童もいる。

(4) 指導にあたって

教材文の特集ができるまでの学習が、自分たちが発信する活動を行う上で手引きとなることを常に意識させる。

ニュース特集の制作過程を時間の進行に沿って読み取りをさせ、情報発信の活動に生かす

ことができるようにする。

ニュース特集の制作過程で大事なこと・気をつけることをおさえさせ、情報発信の活動に生かすことができるようにする。

特集番組を作る時、必ず発信者の願いや思いがあることに気づかせ、自ら情報発信の活動においても願いや思いをもって活動させる。

4 単元の目標

【国語への関心・意欲・態度】

ニュースを探して伝えることに関心をもち、伝え方や内容を工夫しようとしている。

【書く能力】

・編集作業を通して、書く必要のある事柄を整理する。(書イ)

・集めた材料を、目的に合わせて整理し、加工して伝える。(書工)

【読む能力】

自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段階ごとに読み取る。(読オ)

【言語についての知識・理解・技能】

文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。(言オ(ア))

5 学習指導計画と評価基準(14時間)

次	時	学習活動の概要	主たる評価基準	リンク
第一 次	1	○テレビのニュース番組を見て、その感想を発表し合う。 ○教材文の範読を聞いて、初めて知ったことや興味をもったことを書き、感想を交流する。	【関】教材文の内容から、初めて知ったことや興味をもったことを書いている。	・教材文の学習を生かして、情報を発信する活動を行うことを理解させ、見通しを持たせる。 ・情報発信の活動では「○○先生の仕事」を「祖父母」に発信することを知らせ、学習全体を通して目的意識・相手意識を持って学習を進められるようにする。
	2	○新出漢字の練習と、難しい意味の言葉を調べる。	【言】新出漢字と、言葉の意味を理解している。	
第二 次	3	○教材文全体を読む。 ○書かれている内容を表に整理しながら、学級全体で読む。	【読】教材文を読み、ニュースを人々に伝えるまでの段階を表に整理している。	・教材文の「特集」の制作過程を時系列に沿って学習を進めることで、「工夫して発信しよう」での学習に生かす。 ・特集の制作の各過程で気をつけることや、大事なことを中心に読み取らせ、「工夫して発信しよう」の学習で意識して活動を行わせる。 ・「特集」には、必ず発信者の願いがあることに気づかせ、「工夫して発信しよう」でも願いや思いを持って活動を行わせる。
	4	○前時の学習方法を生かし、自分の力で教材文の内容を表に整理する。	【読】教材文を正しく読み、ニュースを人々に伝えるまでの段階を自分の力で表に整理している。	
	5	○「特集」と他のニュースとの違いを考えながら読む。 ○「話題選び」から「撮影」までの過程で大事なことや気をつけることを中心に読んでまとめる。	【読】「話題選び」から「撮影」までの過程で大事な点や気をつけることを読み取っている。	
	6	○「編集」と「原稿を書く」過程で大事なことや気をつけることを中心に読んでまとめる。 ○報道(発信)する人の思いや願いについて理解する。	【読】「編集」と「放送原稿を書く」過程で大事な点や気をつけることを読み取っている。	

第 三 次	7	○思いや願いを持って、祖父母交流会でどの先生について「特集」として発信したいかを考える。 ○教材文の学習や「工夫して発言しよう」から、情報発信までの手順を確認する。	【関】思いや願いを持って、どの先生について「特集」として発信したいかを考えている。	・教材文の「話題選び」の過程で学習した「多くの人の関心と呼ぶ」という大事なことを意識して、取材対象を選択させるようにする。
	8	○目的に沿って、企画書を作る。	【書】自分の力で情報を発信していきたいという願いをもち、目的に沿った企画書を書いている。	・目的意識・相手意識を持って企画書を作成させる。
	9 ・ 10	○自分の思いや願いを伝えるために必要な材料を集めるために取材計画を立て、目的を持って取材する。	【関】自分の思いや願いを伝えるために必要な材料を集めるための取材計画を立てて、目的を持って取材をしている。	・教材文の「企画会議1」の過程で学習した「疑問に思っていることから取材の中心を考える」という大切なことから取材計画を立てさせる。
	11	○「編集して伝える」を参考に編集作業の手順を確認する。 ○取材して得た材料の中から、目的や意図に合った内容のもの、効果的に伝えられるものを選ぶ。	【関】編集作業の手順を理解し、取材して得た情報の中から、目的や意図に合った内容のもの、効果的に伝えられるものを選んでいく。	・「編集して伝える」を参考に、意図がよりよく伝わるような編集の仕方を考えさせる。
	12	○取材して得た材料を配列し、聞き手に分かりやすいように発表原稿を書く。 (本時)	【書】教材文の「原稿」の過程で学んだ大事なことや気をつけることにそって、発表用原稿を書くことができる。	・発表用原稿を書くときは、教材文の「原稿」の過程で学習した大事なことと気をつけることに留意して原稿を書かせる。
	13	○発表の練習を行い、改善点を話し合う。	【話・聞】発表を聞き、分かりやすい発表になるように改善点を述べる。	・相互評価をし合い、より分かりやすい発表を目指して練習を行わせる。
	14	○祖父母交流会で発表する。	【話・聞】聞き手に自分たちの伝えたいことがよく分かるように発表する。	

6 本時の指導

(1) 指導構想

本時の学習では、選んだ材料を配列し、原稿を書く学習を行う。始めに配列する学習を行う。配列では自作のモデル文を提示し、それに沿って配列をさせる。

配列が終わったら、原稿を書く学習を行う。聞き手に分かりやすい発表用原稿になるように、教材文の原稿作りの過程で学んだ「大事なこと・気をつけること」を確認した後に、そのことを意識して書かせる。

自力で作業を進めることが困難な児童には、机間指導での助言を手がかりに書き進められるようにする。

(2) 目標

取材して得た材料を配列し、聞き手に分かりやすいように発表用原稿を書く。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の支援と働きかけ	評価(方法)
----	------	------------	--------

<p>つかむ</p> <p>3分</p>	<p>1 前時の学習の想起をする。</p> <p>2 本時の課題の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>材料を配列し、聞き手に分かりやすいように発表用原稿を書こう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振りかえさせ、学習計画から本時行うことを確認する。 	
<p>ふかめる</p> <p>37分</p>	<p>2 材料を配列する。</p> <p>3 教材文で学習した放送原稿の書き方で大事なことや気をつけることを確認する。</p> <p>4 配列した材料をもとに発表用原稿を書く。(一人学び)</p> <p>5 推敲する。(ペア学習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を提示し、それにそって前時に選んだ材料を配列させる。 ・「耳で聞いて分かりやすいように言葉を選ぶこと」、「初めに結論を言い、理由を後から述べること」、「1文は短くして、主語と述語の間をなるべく空けないこと」の3点を意識して書くことが、聞き手に分かりやすい発表用原稿になることを確認する。 ・机間指導の中で、自力で書き進めることが困難な児童に対し助言する。 ・字の間違いだけでなく、大事なことや気をつけることとしてあげた3点についてもチェックし合う。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>モデル文を参考にして材料を配列している。(ノート)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教材文で学習した放送原稿の書き方で大事なことや気をつけることを覚えているか。(発言)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>教材文から学んだ放送原稿の書き方をもとに、聞き手に分かりやすいように発表用原稿をいているか。(ノート)</p> </div>
<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>6 自己評価をする。</p> <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に沿って、本時の学習を振り返り、自己評価させる。 ・次時は発表原稿をもとにグループ内で発表の練習を行い、よりよい発表を目指して改善していくことを確認する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題に沿った発表原稿を書くことができたか。(挙手、発言、ノート)</p> </div>

(4) 具体の評価規準

評価規準	十分満足できる児童の姿の例	努力を要する児童への手立て
教材文の「原稿」の過程で学んだ大事なことや気をつけることにそって、発表用原稿を書くことができる。	教材文の「原稿」の過程で学んだ大事なことや気をつけることにそって、分かりやすい発表用原稿を書くことができる。	机間指導で教材文から学んだ大事なことや気をつけることをもとに、つまずきに応じて適宜助言を行う。